

第5学年 やなぎっこ学習指導案

日時 平成16年10月20日(水)5校時
場所 5年教室
対象 第5学年 男子4名 女子7名
指導者 臼井 直

1 単元名 イワナ探検隊 ~イワナに学ぶ~

2 単元について

【教材観】

本単元で追究の素材となるイワナは、岩手山から流れ出る冷たい湧き水がその生育に適していることもあって、ここ柳沢で25年程前から養殖されてきた。魚の育成には「水」は大変重要な位置を占め、昨年度、「総合的な学習の時間」でわっくつの水を学習した本学級の児童にとっては、このイワナの学習は、昨年度からの流れの延長にあると言える。

本単元では、「イワナの生態」と「養魚場で働く人の生き方」の2つを柱にした単元構成を考えている。直接養魚場に赴いてイワナを観察し、様々な観点からイワナについて児童一人一人にテーマを決めさせ、調べまとめさせる活動を通して、課題設定からの一連の活動を様々な側面から体験させ学ばせたい。それと平行して、イワナの養殖を営んでいる佐藤さんの工夫や苦労、願いなどを考えさせたり気づかせたりして、佐藤さんの生き方、自分のこれからなどについても考えさせていきたいと考え、本単元を設定した。

【児童観】

今回お世話になっている「いわな館」の佐藤さんは、本校PTA役員であり、児童にもよく知られた存在である。本学級の児童たちにイワナについて知っていることを紙に書かせたところ、11人中10人は佐藤さんの所のイワナを見たことがあり、イワナの住む水温や何年育てるとどのくらいの体長になるかなどを書いた児童もいて、イワナはなじみのある魚であった。

本学級には、グループごとに同じ課題を調べていくとき、他人任せになって後ろからついていくという感じの男子児童が若干いる。「追究力」が少々足りない児童である。本単元では、その子たちにも焦点を当て、追究することのおもしろさを感じさせながら、集中力を持続させての課題の追究などをさせていきたい。そして、新しいことを知るといふ、本来の学習の楽しさを体感させたい。

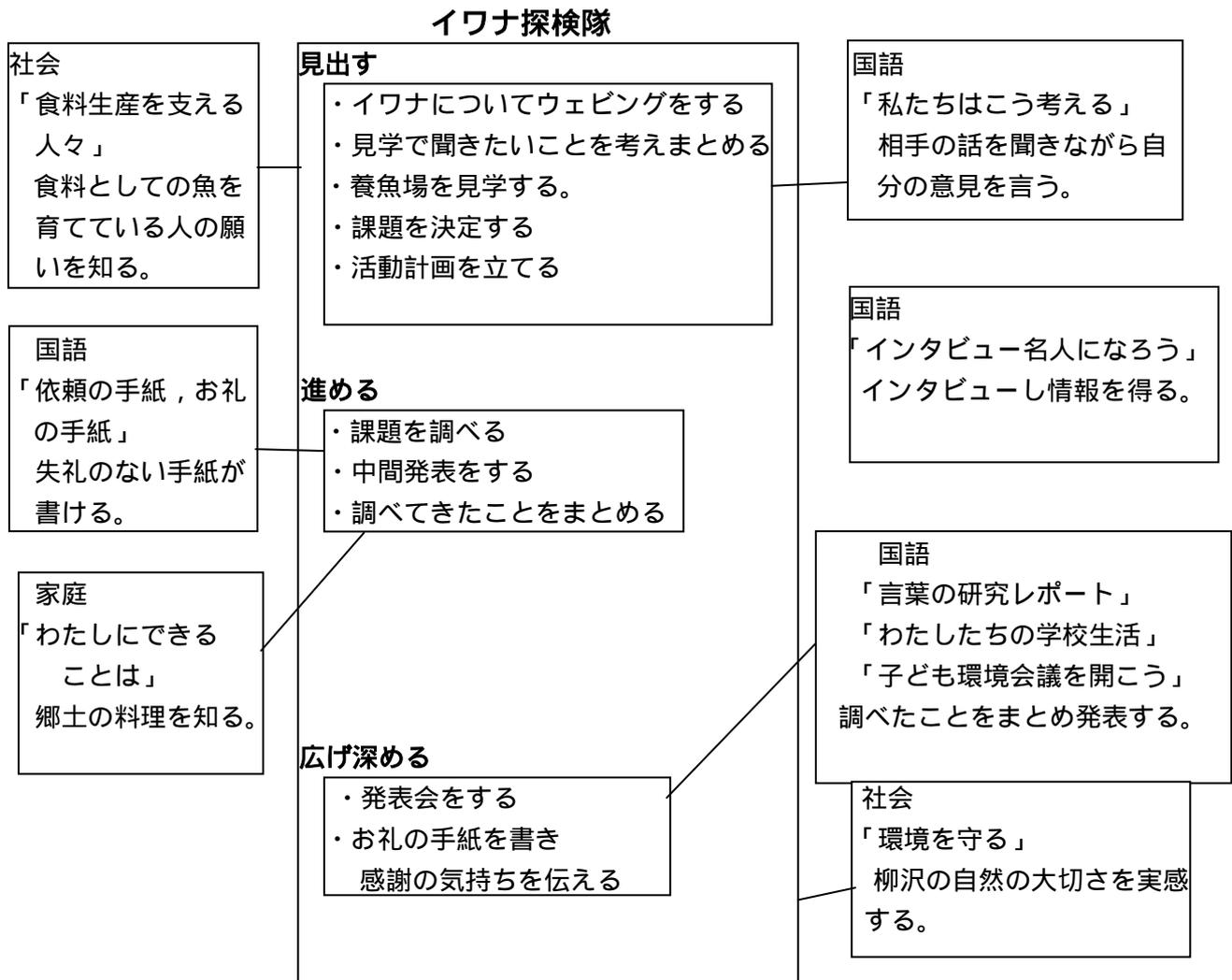
【指導観】

養魚場の見学を経てから、問題意識が高まった上でそれぞれの追究する課題をしっかりと決めさせたい。また、これから追究していくにふさわしい課題かどうかを児童自らが判断できる力を付けていきたい。さらに、「進める」段階では、児童にとってまだ知らない部分に教師が光を当てるような展開も試してみたい。また、佐藤さんへの取材や本などから、柳沢のイワナについての理解を深め、更に佐藤さんのイワナに対する思いと柳沢への愛着を知ることにより、柳沢に生きる佐藤さんの生き方にふれさせたい。

3 単元のねらい

- ・自分の追究する課題を設定し、調べまとめて発表する力を伸ばす。
- ・他者との交流や共同して取り組む活動からさまざまなものの考え方や積極的に取り組む態度を育む。
- ・他教科で身に付けた知識や技能などを実際に生かし自分のものにさせるとともに、柳沢を見直し郷土を愛する心情を養う。

4 基本構想図



- 国語
- ・ 依頼の手紙，お礼の手紙
依頼状や礼状の書き方を知り，用件や気持ちが相手に伝わるように手紙を書く。
 - ・ 言葉の研究レポート
身の回りの言葉に興味をもち，調べた言葉を整理して分かりやすく書く。
 - ・ わたしたちは，こう考える
自分たちの学校生活上の問題を解決するために，計画的に話し合う。
 - ・ わたしたちの学校生活
学校生活で体験したことを分かりやすく書いて，相手に伝える。
書いたことをもとに，相手や目的を考えてスピーチをする。
 - ・ 「子ども環境会議」を開こう
課題について調べたことを整理して資料をつくり，「子ども環境会議」を開いて，考えを深める。
 - ・ インタビュー名人になろう
話の組み立てや言葉遣いを考えてインタビューの練習をし，自分の学習に生かす。

- 社会 ・食料生産を支える人々
日本の農業や水産業がさかんな地域の様子を具体的に調べ、食料生産に関わる人々が生産を高める工夫・努力をしていることや、農業・水産業の現状と課題をとらえることができる。
- ・環境を守る
自分たちと自然環境との結びつきに気づき、森林を守り育てていくことの大切さをとらえることができる。
- 理科 ・魚や人のたんじょう
魚には雌雄があり、生まれた卵は日経つにつれて変化し、やがて子魚に成長しかえることを理解する。
- 家庭 ・わたしにできることは
食事の組み合わせを調べることを通して、様々な料理や食事に関心をもつことができるようにする。

5 単元の活動計画と評価規準（全37時間）

段階	時間	学習活動	評価規準	具体的評価規準	主な支援
見出す 6時間	1	イワナについて知っていること、考えたこと、思ったことなどをウェビングして出しあう。	対象について知っていること、考えたこと、思ったことを発表できる。 ＜表現力＞	知っていること、考えたこと、思ったことを線でつないで書くことができる。	「形」「色」「味」「性質」「歴史」など何でもいいことを助言する。
	1	見学に行って、質問したいことや確かめたいことを考え、まとめる。	対象に対して問題意識をもつことができる。 ＜計画力＞	一人一人が自分の質問したいことや確かめたいことなどをシートに書くことができる。	前の時間のウェビングをはりだしヒントにさせる。
	2	養魚場を見学する。	対象に興味を持ち続け、必要な情報を集めることができる。 ＜行動力＞	対象に関して思ったこと、考えたこと、気がついたことなどを5つ以上書ける。	どのようなことを書けばいいの具体的な例を示す。
	1	不思議に思ったことや新たに発見したことなどをカードに書き出し、グループ分けしていくことで、自分の追究する課題を決める。 (本時)	対象に対して問題意識を持ち、追究したい課題を決め、 ＜計画力＞	自分の追究する課題を決め、なぜその課題にしたのか理由を学級みんなに説明できる。	課題が決まらない子には様々な例を示し興味を持って取り組めるようにする。
	1	これからの追究計画を立てる。	これからの計画を立てることができる。＜計画力＞	計画を内容、方法、時間の表にすることができる。	モデルを児童の表から示す。
進める	21時間	・追究する。			
広げ深める	10時間	・活動を振り返り、自分たちが出来ることを考える。			

6 本時について

(1) 本時のねらい

自分の追究する課題を，話し合いを通して決めることができる。

(2) 本時の活動について

前時に養魚場を見学している。事前に「自分の追究課題を考えながら見学しよう」と声がけするので，イワナを直接観察したり触らせてもらったり佐藤さんにインタビューしたりする中で，子ども達は自分の課題について考えながら見学するであろう。そして本時では，見学をして気づいたこと，わかったこと，思ったことなどをみんなできし合い，付箋紙に書いて分類しまとめて課題を決めていく。

この気づいたことなどを付箋紙に書き分類，整理して課題を決めていく方法の利点は，追究の内容がいくつあるのか具体的に分かるということと，なかなか課題が思いつかなかったり決められなかったりする児童でも比較的容易に課題を決めることができるところにある。

(3) 本時の展開

段階	学習内容	予想される児童の活動	指導上の留意点
導入 3分	1 見学して気づいたことなどをもとに自分の追究課題を決め計画を立てるといふ今日の活動を確認する。	これから調べていく自分の課題を決めよう。	説明は短くし，児童の発表の時間を多く取る。
展開 41分	2 養魚場を見学して分かったこと，疑問に思ったこと，調べてみたいことを付箋紙に書く。	・メモをもとに3色の付箋紙に分けて書かせる。	付箋紙とペンは事前に配布しておく。
	3 付箋紙に書いたことを発表する。付箋紙は黒板に貼りだす。グループごとにまとめる。	・グループに分ける作業は児童と相談して教師がやる。	机の向きをコの字形にしてお互いに顔が見える状態にする。
	4 自分の課題を決める。	・個人またはグループで取りくむ課題を決める。	児童で相談させたり相談にのったりする。
終末 1分	5 次回の予定を確認する。	お互いにこれからどのような活動をしていくのかを知る。	授業中の子どもの発言や態度を取り上げ，認めて次への意欲を高める。

(4) 評価

- ・自分のテーマを決められたか。(学習シート)